

<b>教育目標</b>	
<p>「自分で考え、自分で動き、意欲をもって遊ぶ子どもの育成」</p> <p>○自己を発揮する子ども      ○人とつながることを喜ぶ子ども      ○主体的に遊ぶ子ども</p>	
<b>年度末の最終評価</b>	
自己評価	<p><b>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生きる力」を育むことを念頭に、一人一人の個性や発達を大事にしながら、子どもが主体的に遊びこむ姿を目指した保育に取り組んできた。</li> <li>・異年齢の子ども達が関わり合える保育をすることを通して、子ども個々の良さや集団の育ちを丁寧に見取り、必要な教育内容を考え、質の高い保育を目指した。</li> <li>・子どもの豊かな学びと健やかな成長のために、子どもを中心に据えた保幼小中連携、とりわけ保幼小接続に向けた取組を充実・継続・発展させていくことが重要である。</li> <li>・先行き不透明な激動の時代を生き抜く子どもを育むには、自ら主体的に物事に関わり、自ら考え、工夫することを楽しむ力、そしてそれを他者と協働的に行う力を育むことが基盤である。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが安心・安定した幼稚園生活を送ることができる教職員との信頼関係が構築されていることがベースになっている。</li> <li>・異年齢の子ども達の関わりが濃くなり、年少児は年長児にお兄さん・お姉さんへのあこがれと目標を抱き、年長児は年上であることに自覚をもって自発的に行動する態度が見られる。</li> <li>・教職員と保護者が、少人数保育の問題意識を共有し合い、スクラム組んで活動できている。</li> <li>・コロナの影響はあったが、その中でも創意工夫により、本園の教育目標は概ね達成された。</li> <li>・のびのび走り回る子どもたちの姿のあるこの地域の幼稚園を大切にしていきたい。</li> </ul>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年10月19日	学校運営協議会委員
最終評価	令和5年3月10日	学校運営協議会委員

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園生活の中で、様々な感情体験をする場面をとらえる。 ～少人数保育の中の異年齢の関わりを重点的に～</li> <li>・週計画案と保育実践、評価の連動（PDCA）から、日々の保育の充実を図る。</li> </ul>
<p><b>（取組結果を検証する）各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討</li> <li>・アンケート項目「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」「子ど</li> </ul>

もは安心して幼稚園に通っている」「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しみにしている」「子どもは、幼稚園で身近な動植物に興味・関心をもって過ごしている」

#### 中間評価

##### 各種指標結果

- ・ 幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討
  - ・ アンケート項目
- 「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」…91.7%
- 「子どもは安心して幼稚園に通っている」…100%
- 「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しみにしている」…100%
- 「子どもは、幼稚園で身近な動植物に興味・関心をもって過ごしている」…100%

#### 自己評価

##### 分析（成果と課題）

- ・ 子どもが主体的に遊ぶ中で、自己発揮や自己抑制をしている姿を環境構成や支援の在り方から考え、自己発揮と自己抑制の調和のとれた折り合う心を育もうとする実践研究は、保育の改善や子どもの変容につながりつつある。

##### 分析を踏まえた取組の改善

- ・ 指導者が目指す子ども像を見据え、願いや意図をもって環境構成したり、子どもの遊びを援助したりすることが、主体的に遊ぶ子どもや他者と折り合いをつける子どもの姿を見とる保育につながっている。この取組を続け、子どもの自己発揮と自己抑制の姿を見取り評価し伸ばす取組へと進化させていく。

##### （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・ 幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討
- ・ アンケート項目「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」「子どもは安心して幼稚園に通っている」「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しみにしている」「子どもは、幼稚園で身近な動植物に興味・関心をもって過ごしている」

#### 学校関係者評価

##### 学校関係者による意見・支援策

- ・ コロナ禍様々に制限がある中、取組や活動の量ではなく質を問直し、吟味し、できることに取り組んでいて、子どもの生き生きとした活動が保障されている。
- ・ アンケート結果からも、子ども一人一人の個性が尊重され、安心できる環境づくりに取り組まれた成果が表れていて、良好な園運営が営まれている。

#### 最終評価

##### （中間評価時に設定した）各種指標結果

##### 各種指標結果

- ・ 幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討
  - ・ アンケート項目
- 「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」…100%
- 「子どもは安心して幼稚園に通っている」…100%
- 「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しみにしている」…100%
- 「子どもは、幼稚園で身近な動植物に興味・関心をもって過ごしている」…91.7%

自己評価	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の取組を振り返りながら、主体的に遊ぶ子どもの具体で、子どもの思いや感じていることを受け止め、丁寧に見取り、次の手立てを探りながら保育の改善を図ることで、めざす子ども像の「自己を発揮する子ども」「人とつながることを喜ぶ子ども」「主体的に遊ぶ子ども」の具現化につながっている。</li> <li>・少人数保育の異年齢の子ども達の関わりに着目し、幼稚園生活の中で様々な感情体験をする場面をとらえることをねらって、環境構成や教師の援助について、実践研究を積み重ねてきた。まず、異年齢の少人数クラス同士で共に生活することで、いざこざの場面が生じ、どうすればよいのか考える機会が増え、感情体験する場面となった。4歳児は、異年齢で生活する機会が増えることで、5歳児に対する緊張感がなくなり、5歳児と一緒にいることで安心につながっている姿が見られた。5歳児は、人数が増え、活動に活気が生まれることで、遊びの楽しさが増し、多様な姿を見せる4歳児と共に生活することで、いろんな表現をしてもいいのだと感じる選択肢をもつことができた。子ども一人一人がイメージしている忍者をもとに、一年を通して共に遊び続け、楽しんできたことで、仲間意識が生まれ、何事も共有し合おうとする子ども達の姿になった。</li> <li>・次年度も異年齢の子ども達が共に生活することで、活気が生まれるようにする。</li> <li>・次年度は、少人数保育という枠組みの中での子どもの学びと育ちをいかに豊かにするかを実践研究したい。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数の枠組みの中で、子ども一人ひとりの多様性、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識して、個々の状況、困りや育ち、感情体験の姿を見取り、評価し伸ばす保育を通して、自ら主体的に物事に関わり、自ら考え、工夫することを楽しむ力、そしてそれを他者と協働的に行う力を育む保育をめざしたい。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「少人数だから～できない」という否定的な見方ではなく、少人数であっても異年齢の子ども達が関わり合える保育をすることによって、子ども個々に立場を考え、できることをしようしたり、実際に行動したりするなど、主体的に気付き、考え、判断・行動へとつながる経験を積むことができる。それら一つ一つの「できた」という成功体験・達成感を伴い、自己有能感や自尊感情を高め、自信につながっている。</li> </ul>

## （２）幼小連携・接続に関して

<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間交流計画の作成</li> <li>・通園区域内にある保幼小中学校への保育公開及び合同研修</li> <li>・接続カリキュラムの作成と検討</li> <li>・「親子で絵本！」の取組の定着</li> </ul>
<p><b>（取組結果を検証する）各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の事前・事後の検討</li> <li>・公開保育及び合同研修の実施</li> <li>・「親子で絵本！」のノート活用度</li> <li>・アンケート項目「子どもは“親子で絵本！”の取組を楽しんでいる」「幼稚園は、小中学校や地域、家庭とのつながりを大切にしている」</li> </ul>

## 中間評価

	<p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の事前・事後の検討</li> <li>・公開保育及び合同研修の実施</li> <li>・「親子で絵本！」のノート活用度</li> <li>・アンケート項目</li> </ul> <p>「子どもは“親子で絵本！”の取組を楽しんでいる」…100%</p> <p>「幼稚園は、小中学校や地域、家庭とのつながりを大切にしている」…100%</p>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初の幼小連携の取組を計画し、小学校で保幼小連絡会を、そして、本園児が二条城北小学校1年生の体育の授業見学することができた。</li> <li>・二条城北小学校のスポーツフェスティバルと二条中学校の体育大会を参観することができ、幼児と児童、幼児と生徒の交流の場を設けることができた。</li> <li>・「親子で絵本！」を園全体で絵本貸出に取り組み、絵本読書ノートも活用していて大変良好である。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染状況により、直接交流したり、リモート交流したりするなど、子どもの学びと成長の連続性を保障する取組を実施する。</li> </ul>
	<p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の事前・事後の検討</li> <li>・公開保育及び合同研修の実施</li> <li>・「親子で絵本！」のノート活用度</li> <li>・アンケート項目「子どもは“親子で絵本！”の取組を楽しんでいる」「幼稚園は、小中学校や地域、家庭とのつながりを大切にしている」</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公立幼稚園は、小学校・中学校と同様に地域にある幼稚園として、さらに子どもの学びと育ちにつながっていくための交流を、三密を避けるなど対策を講じて、とりわけ教員同士の交流を積極的に進めてほしい。</li> <li>・小学校で使用している「100冊読書ノート」を公立幼稚園で活用していることは、読書生活を通して幼小がつながるよい取組である。</li> </ul>

## 最終評価

	<p><b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の事前・事後の検討</li> <li>・公開保育及び合同研修の実施</li> <li>・「親子で絵本！」のノート活用度</li> <li>・アンケート項目</li> </ul> <p>「子どもは“親子で絵本！”の取組を楽しんでいる」…91.7%</p> <p>「幼稚園は、小中学校や地域、家庭とのつながりを大切にしている」…100%</p>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一年生お招き会、保幼小連絡会、二条城北小学校スポーツフェスティバル見学、二条中学校体育大会見学、京極幼稚園との交流、二条城北小学校秋祭り交流、二条中学校チャレンジ体験、二</li> </ul>

価	<p>条城北小学校学習発表会見学、二条城北小学校アートフェスティバル見学、二条中学校家庭科交流、二条城北小学校ビデオレター等、幼稚園・小学校・中学校の子ども同士・教員同士の交流をすることができた。</p> <p>・1月31日（火）に保幼小連携公開保育並びに研修会を実施し、二条城北小学校の校長先生をはじめ、1年生担任の先生3名が参加され、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を中心に、幼稚園と小学校のそれぞれの子どもの学びと育ちについて話し合い、理解し合う場を設定することができた。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>・保幼小中連携接続を確実なものにしていくために、幼小連携・接続を確固たるものにしたい。</p> <p>・「親子で絵本！」のノート活用100%になるよう工夫しながら改善したい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・公立幼稚園は、小学校・中学校と同様に地域にある幼稚園として、子どもの学びと育ちにつながるための交流を、特に教員同士の交流の場をもち、お互い理解を深め合える取組をしてほしい。</p> <p>・「親子で絵本！」の取組は、子どもに親にもっとも有意義なものなので、今後とも創意工夫して取り組み続けていただきたい。</p>

### （３）預かり保育に関して

<p>具体的な取組</p> <p>・個々の興味に応じた遊びをゆったりと安心して楽しく過ごせる環境構成を行う。</p> <p>＊教育課程内の活動と連動した遊びや季節感のある活動内容を取り入れる。</p> <p>・地域人材の活用</p>
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <p>・預かり保育参加人数</p> <p>・預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返り。</p> <p>・アンケート項目「子どもの興味に応じた遊びを、ゆったりと安心して楽しく過ごしている」</p>

### 中間評価

自己評価	<p>各種指標結果</p> <p>・預かり保育参加人数の増加</p> <p>・預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返り</p> <p>・アンケート項目</p> <p>「子どもの興味に応じた遊びを、ゆったりと安心して楽しく過ごしている」…100%</p>
	<p>分析（成果と課題）</p> <p>・「三密を避ける」「マスクの脱着」「手洗い・手指消毒の徹底」「消毒」など、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、取り組むことができた。</p> <p>・年長組が男児1名、女児2名の少人数学級であり、異年齢の子ども同士のかかわりや同性の子ども同士のかかわりを求めて預かり保育に参加している園児もいる。</p> <p>・預かり保育担当者と担任による子どもの様子や家庭との連携の情報共有をすることができた。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>・新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら、活動内容や方法を見直すとともに、実施可能な取組を進めていく。</p>

	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育参加人数</li> <li>・預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返り</li> <li>・アンケート項目「子どもの興味に応じた遊びを、ゆったりと安心して楽しく過ごしている」</li> </ul>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育では、子どもの興味に応じた遊びを、ゆったりと安心して楽しく過ごさせているので、大変良好な園運営がなされている。</li> <li>・サッカーやヨガ、モールづくりなどの外部講師を招いた取組は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、安全・安心を損なわない無理のない範囲で実施の有無を決定してほしい。</li> </ul>

#### 最終評価

	<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育参加人数</li> <li>・預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返り</li> <li>・アンケート項目「子どもの興味に応じた遊びを、ゆったりと安心して楽しく過ごしている」…100%</li> </ul>
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「三密を避ける」「マスクの脱着」「手洗い・手指消毒の徹底」「消毒」など、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、取り組めた。</li> <li>・アンケート結果が100%であったことから、子ども主体・子どもが中心の活動を保障する場を提供することができた。</li> <li>・小規模園の多様な子どもとの出会いやかかわりが少ないという悩み解決の一助として、異年齢や同性の子ども同士のかかわりの場を保障することができた。</li> </ul> <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染状況を考慮し、感染拡大防止対策を講じながら、活動内容や方法を吟味・見直すとともに、実施可能な新たな取組を進めていく。</li> </ul>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数のため、クラスの枠にとどまらない異年齢の子どもたちが関わり合うことができる預かり保育の良さが活きている。</li> <li>・各々の子どもが安心してゆったりと安定的に預かり保育が営まれていることがよい。</li> </ul>

#### (4) 子育ての支援に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児親子を対象とした教育相談の実施</li> <li>・幼稚園生活や保育内容説明会での先輩ママと触れ合い</li> <li>・未就園児親子を対象とした、在園児や 地域の方と触れ合える取組 (七夕のつどい、運動会、楽しいつどい、水遊びへの参加など)</li> <li>・身長や体重を測り、親子で成長を喜び合う。</li> </ul>
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援の取組の回数や参加人数、教育相談件数</li> </ul>

#### 中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援の取組の回数：31 回、参加人数のべ 265 人</li> <li>・教育相談件数：64 回（4 月～9 月）</li> </ul>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4 月中旬からのほぼ毎月曜日と木曜日（10：00～11：30）は、子育てボランティアの協力により、0 歳～3 歳のひよっ子クラブや 3 歳未就園児親子のいちご組（月曜日から金曜日の 9：00～11：30）を通して、子育て支援にかかわる教育相談を継続して実施することができた。ひよっ子クラブ参加者は 1 日あたり平均 8.6 名、いちご組は、3 名と少ない。</li> <li>・月曜日から金曜日の 9：30～15：00（12：00～13：00 を除く）の園庭開放は、降園時の短時間利用が多かった。</li> </ul>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児親子を対象とした子育て支援の取組については、これまで通りホームページや地域へのチラシ・ポスターの配布、区役所のチラシ配架など、広報活動を継続して取り組んでいく。</li> <li>・未就園児親子を対象とした子育て支援の取組への参加が減少傾向にある点については、公立幼稚園プロモーションビデオを活用したり、QR コードを上京はぐくみだよりなどに掲載したりして、情報発信する。</li> </ul>
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援の取組の回数や参加人数、教育相談件数</li> <li>・未就園児保護者に対するアンケート実施</li> </ul>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の早い時期から就学前施設探しをして、0 歳から 3 歳の早い時期からの保育を希望する保護者が増えてきているので、2 年保育の待賢幼稚園に 3 歳児親子が遊びに来ないのも一因と考えられる。</li> <li>・子育て支援の取組には、今後も子育て先輩ママとして、地域や OB が協力していきたい。</li> </ul>

#### 最終評価

<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援の取組の回数：（10 月～2 月）29 回、参加人数のべ 261 人</li> <li>・教育相談件数：（10 月～2 月）84 回</li> </ul>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期に続き、10 月からのほぼ毎月曜日と木曜日（10：00～11：30）は、子育てボランティアの協力により、0 歳～3 歳のひよっ子クラブや 3 歳未就園児親子のいちご組（月曜日から金曜日の 9：00～11：30）を通して、子育て支援にかかわる教育相談を継続して実施することができた。ひよっ子クラブ参加者は 1 日あたり平均 9 名、いちご組は、3 名と少ない。</li> <li>・月曜日から金曜日の 9：30～15：00（12：00～13：00 を除く）の園庭開放は、降園時の短時間利用が多かった。</li> </ul>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児親子を対象とした子育て支援の取組については、これまで通りホームページや地域へのチラシ・ポスターの配布、区役所のチラシ配架など、広報活動を継続して取り組んでいく。</li> <li>・一昨年度作製した公立幼稚園プロモーションビデオを活用したり、QR コードを上京はぐくみだよりなどに掲載したりして、情報発信する。</li> </ul>

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひよっこクラブは、保護者同士の交流や待賢幼稚園の温かい雰囲気の中で、子育ての不安や負担を軽減する役割を果たしている。</li> <li>・未就園児クラスのいちご組の取組をもう少し増やすことによって、園児数増加に結び付けてほしい。</li> <li>・子育て支援のひよっこクラブは、未就園児親子にとって、安心してゆったり過ごせる場所と機会なので、地域内外に発信していきたい。</li> </ul>
---------	---

## （５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<div>具体的な取組</div> <p>○学校運営協議会 3 企画委員会の取組の検証</p> <p>A. 親子の学びプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もちつき、絵本室の整備・貸出、子育て支援センターとしての活動等を行う。</li> </ul> <p>B. からだ元気プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子遠足・夏季プールの開設、運動会の競技、冬のマラソン等を行う。</li> </ul> <p>C. 連携プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小交流、中学校チャレンジ体験受け入れ、グリーンストア等を行う。</li> </ul> <p>○地域資源を活かした指導計画作成</p>	
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の回数や地域の方々の声</li> <li>・アンケート項目 「子どもは幼稚園の取組で地域や地域の方に親しみをもっている」</li> </ul>	

### 中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の回数や地域の方々の声…待賢カーニバルは、新型コロナウイルス感染拡大状況により、中止になる。</li> <li>・アンケート項目 「子どもは幼稚園の取組で地域や地域の方に親しみをもっている」…91.7%</li> </ul>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月21日の「グリーンストア」は、子ども達の育てた花や野菜の苗の保護者や地域の人々との交流を通じて、苗の受渡しや言葉のやり取り等、子ども達の学びの場となった。また、地域のお年寄りお礼のお手紙と大きく育ちましたというひまわりの絵をいただいた。</li> <li>・当初計画していた交流の取組が中止になった取組の影響は大きく、アンケート結果でも「大変そう思う 33.4%」「そう思う 58.3%」「計 91.7%」と他の項目より若干ポイントが低い。</li> </ul>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事への参加や協力体制の在り方については、三密を避けるなど、新型コロナウイルス感染防止対策も考慮し、地域とのつながりを大切にしながら、今後も PTA とともに検討し、改善を図っていく。</li> </ul>
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の回数や地域の方々の声</li> <li>・アンケート項目 「子どもは幼稚園の取組で地域や地域の方に親しみをもっている」</li> </ul>



学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年保育の待賢幼稚園は、今後も園児の減少が大変懸念される。</li> <li>・歴史的にも地域とのつながりの深い待賢幼稚園は、小中学校との連携・協力をさらに密にして、取組を進めていく必要がある。</li> <li>・来年度の「待賢カーニバル」については、実施できるように働きかけ、地域とともに PTA の OB も協力支援していきたい。</li> </ul>
---------	---

#### 最終評価

	<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の回数や地域の方々の声</li> <li>・アンケート項目 「子どもは幼稚園の取組で地域や地域の方に親しみをもっている」 …91.7%</li> </ul>
自己評価	<div>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月のグリーンストアに続き、7月の七夕の集いと3月のひなまつりというように、地域の人々との交流の場をもつことが増え、子どもが地域や地域の方に親しみを感じつつある。</li> <li>・今回も「待賢カーニバル」が、感染症拡大防止の観点から中止になったことが残念である。</li> </ul> <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事への参加や協力体制については、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じ、地域とのつながりを大切にしながら、今後も PTA において検討し、改善を図り取り組んでいく。</li> </ul>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月七夕の集いと3月ひなまつりで、子どもたちと地域のお年寄りとの交流の場と機会をもつことができたので良かった。</li> <li>・「待賢カーニバル」については、来年度ぜひ実施できるように、対策を講じたり待賢 PTA の OB に働きかけたり、協力・支援していきたい。</li> </ul>

### (6) 教職員の働き方改革について

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身ともに健康で、安定・充実した仕事ができるように、個々にそして組織的に工夫して、働き方改革を推進する。</li> </ul>
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノー残業デー（毎水曜日）と18時までの電話対応時間の徹底</li> <li>・業務共有ホワイトボードを活用し、校務支援員やボランティアと連携して業務を遂行する。</li> <li>・年休取得日数を前年度より増やす。</li> </ul>
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の時間外勤務時間「1月あたり平均30時間以内」</li> <li>・年休取得日数「1人あたり7日以上」</li> </ul>

#### 中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の時間外勤務時間「1月あたり平均30時間以内」…「1月あたり平均41.3時間」</li> <li>・年休取得日数「1人あたり7日以上」…「1人あたり平均6.2日」</li> </ul>
自己	<div>分析 (成果と課題)</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の「量」的発想ではなく、「何のための取組か」という「本質」に立ち返って、取組を見直</li> </ul>

評価	し実施してきたことは、意義深い。 ・教職員の働き方改革に向けて、意識変革と具体的に取り組み、時間外勤務時間の縮減につながっている。ただし、管理職の時間外勤務時間は、業務と勤務時間のずれがあり、増えている。
	分析を踏まえた取組の改善 ・今後の行事について、新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら、子ども達の豊かな学びと健やかな成長のために、柔軟に対応実施していく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・教職員の時間外勤務時間「1月あたり平均30時間以内」 ・年休取得日数「1人あたり7日以上」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・全国的に教員採用試験倍率が低くなってきている。教員を志す人が少なくなっている。その大きな要因が、教員の長時間労働や仕事量の多さ、精神的ストレス量などがあげられる。「働き方改革」は、急務である。

#### 最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・教職員の時間外勤務時間「1月あたり平均30時間以内」…「1月あたり平均45.5時間」 ・年休取得日数「1人あたり7日以上」…「1人あたり平均10.8日」	
自己評価	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・教職員の異動一年目であったり業務と勤務時間のずれがあったりしたため、1月あたりの時間外勤務時間が増えている。 ・教職員の働き方改革に向けて、意識変革と具体的な取組により、年休所得日数は目標値を超えることができた。
	分析を踏まえた取組の改善 ・取組の「量」ではなく、「何のための取組か」という「本質」に立ち返って、取組を見直し実施していく。 ・新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら、行事について、時短や復活、前倒しなど、子ども達の豊かな学びと健やかな成長のために、柔軟に対応実施していく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・子育て世代の孤立と関係深い子育て相談等で教職員の負担が増大せざるを得ない現状を考えたも、教職員の健康は大切なので、「働き方改革」は推進されるべきである。 ・教職員が疲れると子ども達に笑顔で接することができなくなることが懸念される。様々に働き方改革が推進されることを期待する。